

中学校・全学年 特別活動（学校行事）

避難訓練

- 1 題材名 「災害発生の推移に合わせた発災対応型の避難訓練」
- 2 ねらい
地震発生時の状況に合わせて、いざというときに適切な避難ができるようにする。
- 3 訓練の実際

【想定】

- ① 緊急地震速報の鳴動
- ② 授業中の地震発生
- ③ 余震の発生
- ④ 昇降口等が通行不可
- ⑤ 校内放送が使用不能

	時間の推移	生徒の動き	◎支援・留意点 ■評価
事前指導			◎避難訓練のねらいに沿った一声指導を行う。
避難訓練	○緊急地震速報の鳴動	○適切な危険回避行動をとる。	◎ものが落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に即座に身を寄せ、頭部を守れているか確認する。
	○地震の発生		◎地震の音声をかけ、緊迫感、臨場感をもたせる工夫をする。
	○放送による避難指示	○教師の指示に従い、校庭に避難する。	◎「お・か・し・も」の約束の徹底を図る。
	○余震の発生	○適切な危険回避行動をとる。	◎窓から離れ、周辺のガラスや照明の落下から身を守るとともに、身を低くするよう指示する。
	○昇降口と階段が通行不可 ○校内放送が使用不能	 ○教職員の指示の下、校庭への避難を再開する。 ○校庭に整列する。 ○講評を聞く。	◎校内の被害状況（出火、通行不能箇所等）を把握し、管理職が避難経路を設定する。 ◎職員室にいた教職員は、管理職の指示の下、各階へ行き、拡声器で通行不能箇所と避難経路を伝える。
事後指導	【各教室】 ○本時の避難訓練について、振り返る。	■ 自身の避難行動を振り返り、自己の課題、今後取り組むことについて、ワークシートに記述している。	

※ 消防署員には、生徒の避難行動はもとより、教職員の避難誘導、指揮系統や役割分担、校内の協力体制、避難訓練の在り方等について評価を依頼する。避難訓練後、管理職及び安全教育担当者等と消防職員とで懇談を行い、課題や改善点を明らかにし、次回の避難訓練に反映させる。